

2025 年 5 月 7 日(水)

2025年国際中国語デーに参加して

4 月 29 日(火・祝)、中国駐日本国大使館において開催された「2025 年国際中国語デー」に参加して来ました。「国際中国語デー」とは、国連が国連会議で使用される 6 つの公用語(アラビア語、中国語、英語、フランス語、ロシア語、スペイン語)について、それぞれ国際デーを定めています。この内、「中国語デー」は、暦で「穀雨」に当たる 4 月 20 日を中国語デーとしています。「穀雨」とは、二十四節季の 6 番目に当たり、「雨が降って百穀を潤す」という意味に由来しています。この時期になると、東アジアに前線が到来し、春の長雨をもたらすとされており、これを過ぎると新緑の季節を迎えます。

今年の中国語デーには、主催者の呉 江浩駐日大使をはじめ、チリツィ=マルワラ国際連合大学学長、早稲田大学や横浜国立大学の副学長ほか日中文化交流に関わる関係者 170 名余りが集まって盛大に開催されました。後半は、中国語コンテストで優秀な成績を上げた東京外国語大学や山梨学院大学の学生による中国語スピーチなどがありました。なかでも理学部出身で中国の大学に留学して本草学で理学博士号を獲った横浜商科大学の久保 輝幸教授(科学史、医学史)のお話はとても興味深かったです。

会に先立って楽器演奏の他、水墨画、剪紙、中国書道(书法)など中国文化の紹介や体験会もありました。私も全日本華人書法家協会主席の高 小飛先生の助言を受けて長鋒筆*という穂先の長い筆を使って中国書道に挑戦してみました(ただ少し漢字間違えました)。また、中国大使館より写真の通り書籍の贈呈を受けました。

石飛 一吉

参考資料

*熊野筆

広島県安芸郡熊野町の熊野筆は、愛知県豊橋筆・奈良県奈良筆・広島県川尻筆とともに日本四大毛筆と呼ばれる。筆生産としては熊野、豊橋、奈良の三か所が三大産地とされ、熊野町は全国の筆生産の約 85 % を占める。人口の約 1 割、2500 人が生産に従事しているという。熊野筆の生産は、江戸末期 19 世紀後半から農家の副業として始まったという。

